

1 章 2017 年度活動概要

2017 年度 COC 事業・COC+事業関連会議一覧

2017 年度 COC 事業概要図

2017 年度 COC 事業・COC+事業関連会議一覧

月日	会議名称
4 月 25 日	第 1 回 COC 事業部会
5 月 10 日	第 1 回 COC+事業子育て高齢化対策領域大学間会議
6 月 27 日	第 2 回 COC 事業部会
7 月 25 日	第 3 回 COC 事業部会
7 月 26 日	第 2 回 COC+事業子育て高齢化対策領域大学間会議
10 月 26 日	第 4 回 COC 事業部会
11 月 25 日	第 5 回 COC 事業部会
12 月 14 日	COC アドバイザリーボード
12 月 20 日	第 6 回 COC 運営会議
1 月 23 日	第 6 回 COC 事業部会会議

【COC 事業関連メンバー】 ※括弧内は所属分野名

- ・地域連携教育・研究センター長： 鈴木志津枝（学長・慢性期看護学）
- ・地域連携教育・研究センター運営委員長： 石原逸子（基礎看護学）
- ・部会長： 相原洋子（地域連携教育・研究センター）
- ・評価部門長： 加藤憲司（専門基礎科学）
- ・編集部門長： 藤代節（人文科学）
- ・部会員： 片倉直子（地域・在宅看護学）、二木啓（専門基礎科学）、
小巻京子（地域連携教育・研究センター）、平野通子（急性看護学分野）、
藤本優子（地域・在宅看護学）
- ・事務： 増井妙、阿部雅美

地域再生・活性化の核となる大学の形成：地域住民と共に学び、共に創るコミュニティケアの拠点づくり

地域ニーズと大学シーズの マッチング

神戸市の課題

- ・神戸市民病院群の在院日数の短縮
- ・後期高齢者の在宅療養人口の増加
- ・医療・介護のボーダレス化による、保健・医療職種によるチーム医療強化の必要性
- ・住民の高齢化による地域住民ネットワークの弱体化

カリキュラム改革

卒業生全員が地域住民の暮らしを理解できる人材育成

- ・地域関連科目：H25年度 18科目(109科目中) → H29年度 31科目(124科目中)
- ・地域連携教育の導入：H29年度 6科目
- ・継続看護の教育強化：2科目の講義科目、6分野の看護学実習及び総合実習(全て必修)で継続看護の視点を強化
- ・訪問看護の教育強化：在宅看護学関連科目(講義、演習、実習)の時間数の増加

大学のガバナンス改革

学長
(センター長)

地域連携教育・研究センター
(H25年度 設置)

地域連携教育・研究センター
運営委員会
(H26年度～)

COC事業部会
COC事業全般
に対応

継続事業部会

学内教育ボラン
ティア導入授業、
まちの保健室に
対応

大学と自治体との連携 地域・社会貢献活動の強化



神戸市須磨区との連携協定締結
(H25年度)
S30年代に開発されたニュータウンの「オールタウン化」が進む
地域との保健福祉を通じたまち
づくりのための協定



地域コミュニティの育成支援
まちの保健室(健康支援、もの忘れ看護相談、こころと身体の看護相談)の出前事業



多職種連携、地域志向性研究
(H26年度～H29年度)
大学教員が中心となり、自治体や市民病院群などと共同で、多職種間ネットワーク機能、継続看護、地域ケアシステム、認知症ケア(家族会や見守り支援など)、終末期ケアに関する研究を実施